国立大学の教員から見た私立大学の教育

Education in a private university from a viewpoint of a teacher in a national university

古賀 潔

1. はじめに

筆者は国立大学法人岩手大学（以下 I 大学）に勤務して35年になる。一昨年（2008年），私立大学である北里大学獣医学部生物環境科学科（以下 K 大学）の2年生を対象とした講義（「農地環境学」2単位）を担当する機会を与えられた。また，昨2009年には大学院修士課程の1年生を対象とした講義（「農地環境学特論」3単位）を担当し，今年2月には修士論文のとりまとめ指導と審査を手伝わせていただいた。このような経緯をふまえて，両大学における教育を比較検討してみたい。

2. 両校の比較

(1) 概要

両校の概要を表1に示す。K大学では1981年に農畜産土木系の新学科である畜産土木工学科を増設し，1999年には生物生産環境学科に改称，2007年には現在の生物環境科学科に改組された。現在の入学定員は80名である。2007年度の改組は大幅な内容変更を伴うものであった。なお，同学科ではより技術者教育を重視した「環境修復コース」（JABEEコース）を設置している。

一方，I大学の農業土木系は1945年盛岡農林専門学校農業土木科の設置，1949年新制大学となり農業工学科に改称，1967年に農業機械を分離して農業土木学科に改称，1991年には再び農業機械系と合わせて農業生産環境工学科に改組，続いて2000年にできた農林環境科学科の地域環境デザイン学講座に引き継がれた。改組は更に続き，2007年には入学定員55名の共生環境課程における地域環境工学コース（その後農村環境デザイン学コース）約20名規模の農業土木系教育プログラムとなっている。

両校の農業土木系教育プログラムがめざす内容には，自然環境の保全・修復などの共通部分が多いが，K大学はより生物環境を，I大学は実践技術を重視しているといえよう。

大学・学部等名称	北里大学・獣医学部	岩手大学・農学部共生環境課程
学科等名称	生物環境科学科	地域環境工学コース
設置年	1981年	1945年
入学定員	80名	課程55名中の約20名
学科の専任教職員	14名（教授5名）+2名（補助員）	コース主担当7名（教授4）
学科の非常勤講師	14名	8名
研究室名	農地環境学，水環境学，緑地環境学 野生動物学，生態管理学 環境情報学，環境計画学	土壌工学，環境動態学，水循環学 河川灌漑工学，水利環境工学 土壌物理学，施設機能工学
卒業生の概数	2,500名	2,000名
教育の特色	コース制の導入 ・生態環境コース（生態・動植物系） ・環境修復コース（JABEE）	06入選択コース制（JABEE，非JABEE） 07入単一コース制（JABEE） 08入単一コース制（非JABEE）
資格	・修得技術者/技術士補申請（JABEEコース） ・測量士補（両コースとも）	測量士補申請 施工管理技士受験資格 初級環境再生医申請
進路	公務員，環境土木系，分析会社，食品など幅広い	公務員，建設業，コンサル

(2) 体験から見た学部教育の比較

まず、クラスサイズの違いが大きい。このため、I大学では授業中の私語はほとんど無いが、K大学では授業開始後収まるまでに若干の時間を要した。しかし、このことが、授業内容の理解あるいは達成度に必ずしも影響しているとは言えない。期末試験の結果は両校とも幅広く分布していた。K大学では試験で不合格の学生の割合がやや多かったが、ほとんどが再試験で挽回した。K大学では再試験が制度として用意されているため、一部の学生は最小エネルギーによる計画的な単位取得を行っているものと思われる。一方、I大学は入試の合格最低レベルはK大学より高いのだが、そのことが試験結果に反映されていない。教員の責任を感じる次第である。両大学とも共通しているのは学生の学力の多様性である。K大学は推薦にはじまる7種類の入試を行っていること（I大は3種類）、合格最低ラインが高くはないことによるものと思われる。I大学の場合は当該課程の合格最低ラインは農学部で最も低いこと、また合格さえすればよしとする受験指導の結果、不本意入学が多いためとも考えられる。

(3) 体験から見た大学院教育の比較

K大学の大学院生には学習・研究意欲が優れた人が多いと感じた。大学院への進学はK大学では学部学生の1割前後でI大学の2割前後より少ない。K大学では本当に大学院にふさわしい学生が進学している一方、I大学ではモラトリアム型の院生も含まれるものと思われる。修士論文の指導や審査、最終試験はK大学がより厳格に行っている。これは、院生が少ないこと、基盤的な研究費が潤沢なことと関係しているものと思われる。

(4) 学生の気質

K大学の学部を卒業しI大学の大学院に進学した卒業生からの聞き取りを行ったところ、以下の様なことがわかった。

学生気質のイメージとしては

北里生：「活動的」「目標が明確」「遊び好き」「なまけもの」

岩大生：「やさしい」「まじめ」「静か」「色白」「努力家」

就職活動について

北里生：自分がやりたい仕事に就く

SE, 学校の先生, 大工, 自動車教習所の教官, 水泳インストラクター

消防士, 警察官, トリマー, 看護師, 介護士などなど

大学で勉強したことは特に生かせなくてもやりたいことをやる

岩大生：大学で学んだことを少しでも生かそうという考え

公務員志望の学生が多い

国がダメなら県, 県がダメなら市町村, それでもダメなら大学院で再チャレンジ

3. おわりに

K大学の本部は首都圏ではあるが専門は十和田市で学び、I大学とは北東北という点で共通している。一方、首都圏には明治大学のように合格最低ラインが高い大学、東京農業大学のように強烈な学風をもつ大学、超大型の日本大学などがあり、異なる状況もあろう。また、国立大学でも旧制大学などの名門校ではI大学とは異なる状況もあろう。セッションでの情報交換、討議に期待したい。